

八本松西地区
自主防災会

自治協ニュース

第0204号
発行者
八本松住民
自治協議会
R02.07.20

わが家の避難行動計画を立てよう

大雨災害に備えて

ご家族やご近所と検討を

わが家の危険度を知り計画を 豪雨予報や大雨危険度を避難のスイッチに

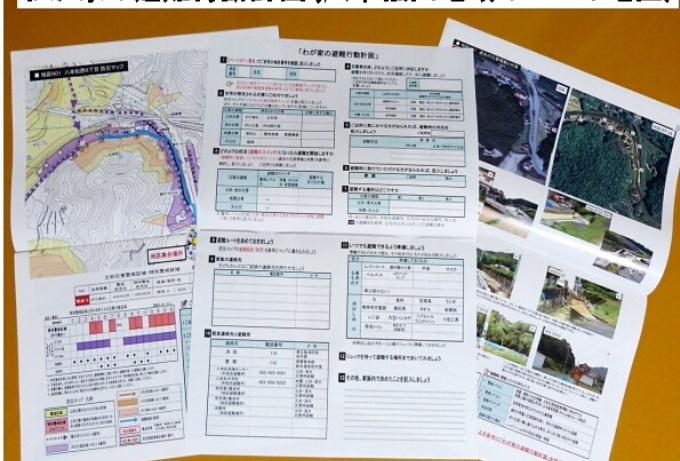
八本松西(宗吉東・南)地区自主防災会(会長 川原研昭)と八本松西(宗吉北)地区自主防災会(会長 佐藤昇)は6月14日(日)宗吉第一集会所で両防災会合同の防災訓練(参加者55名)を実施した。



三密を防ぎ説明を聴く住民の皆さん(中央:挨拶する土久岡自治協会長)

7.06西日本豪雨災害以降、この地域には「避難準備・高齢者等避難開始」や「避難勧告」等の避難情報が頻繁に出され、住民の皆さん自らの判断による避難や災害への備えをどうするべきか求められていた。そのため、昨年度住民自治協議会(自治協)の防災事業によりこの地区の防災マップ・「わが家の避難行動計画」の冊子が作成され、本年5月に住民の皆さんに配布されていた。

わが家の避難行動計画(八本松西地域の一つの地区)



防災マップと危険度情報(左) 行動計画表(中) 写真情報(右)

今回は、その利用の仕方と災害時の情報収集の説明会。最初に、この冊子の編集に当たった自治協の景山晟氏は、「これは、各ご家庭で災害時の行動を計画するために作られたもの。そのため、計画作成の基になる『わが家の危険度』を分かりやすくマップや写真、図表で示した。重要なのはこれらの情報からわが家の危険度を知って

いただき、どのような場合避難が必要か自分(家族)で判断し、計画を立てること。また、同様な危険度のあるご近所と相談し行動計画を立てれば、災害時に避難を呼びかけ合って早めに安全な場所に安心して避難することができ。ご自分で計画を立てれば、災害時に慌てることなく的確な行動ができる」と述べ、地区(土砂災害警戒区域)

さらに、具体的な対応では「特に『Yahoo!防災速報』は、広島県の呼びかけにより作られたアプリで、これをスマートフォン等に登録すればご自宅の地域の『豪雨予報』や『大雨危険度(土砂災害・河川洪水)』等の情報を逐次教えてくれる。災害時には、周囲の状況の変化に気を付けてるとともに、このアプリを登録して得

ごとに具体的な実例を示しながら行動計画の立て方を説明した。次いで、本冊子作成の助言者として編集に参加していただいた県自主防災アドバイザーで気象予報士の井上葉子氏は、「どのようなタイミングで避難するか。それを判断するには情報収集が大変重要です」と述べ、気象庁や市からの情報について分かりやすく説明した。

最後に、防災委員会委員長の牧野美三夫氏は、「気象庁によると梅雨末期に限らず今年はいつ大雨災害が起こってもおかしくないとのこと。いま一度、ご家族やご近所と検討のうえ計画を立て、実際に準備を進めていただき災害から身を守るようお願いいたします」と述べ訓練を終了した。

Yahoo! 防災速報



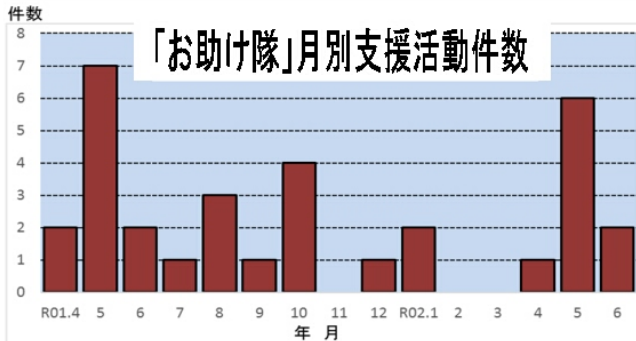
●ヤフー株式会社が、登録された方のパソコンや携帯電話やスマートフォンに、設定した地域の「豪雨予報」や「大雨危険度」などを無料でお知らせします。

大気による災害から命を守るための情報と避難行動 資料から

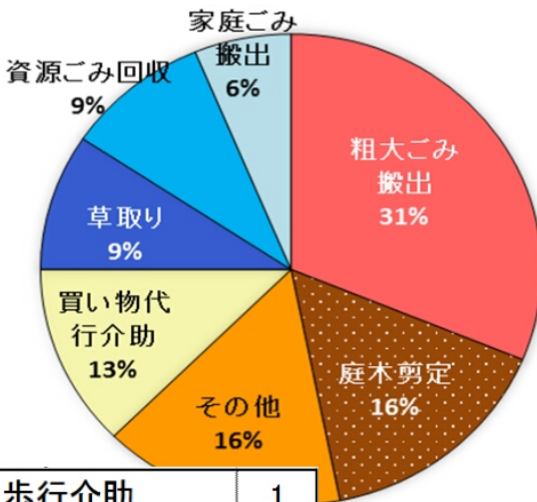
進む 八本松みなみ地区の福祉活動

日常生活支援 今まで32回

高齢者の困りごとに幅広い対応



「お助け隊」支援活動内容



歩行介助	1
病院送迎	1
屋外物置撤去	1
排水路清掃	1
物置屋根補修	1

「お助け隊」の活動は、高齢者の生活を支えるだけでなく、地域の活性化にも貢献しています。今後も、お助け隊の活動を積極的に推進してまいります。

最初に、市社会福祉協議会の岡村智行さん（生活支援コーディネーター）から「ふくし何でも相談窓口（高齢者のいろんな悩みごとを受け止めて解決へ導く）」についての提案があ

り、当福祉会は「ご近所はっとお助け隊（お助け隊）」の役割の範囲の中へ取り込む方向で検討することとなった。

次に、お助け隊の活動報告では、「昨年4月以来の活動回数は32回にのぼり、特に粗大ごみ搬出10回、庭木選定5回の他、物置屋根の補修等さまざまな支援が行われている。（左の図表・写真下）利用者からも『とても助かった、こんな良い町内会は他にないだろう』と喜びの声が聞かれた」と報告された。

キーワードは

「おたがごとまのつながりづくり」

八本松みなみ福祉会「近所はっとお助け隊」

6月28日八本松みなみ地区福祉会（会長 藤原和雄）は八本松南集会所に福祉会会員26人が集まり、今年度最初の福祉活動情報交換会を行った。



生活支援活動状況（排水路清掃と屋根補修）



ブロックごとに情報交換した内容を発表する会員

くため、連絡先を記した中、ツツマグネツトが高齢者世帯（150世帯）に配布されている。

最後に、ブロックごとの情報交換会では、「まだまだ、支援者からの働きかけが必要で、辛抱強く声掛けを続け、困られた時には対応できるようにしておく必要がある。また、空家問題や支援する技術の向上等の対策が必要」等の意見が出され、今後も「お互

いさまのつながりづくり」をキーワードに見守りと生活支援を推進するよう努めた。（写真右）

また、東広島市の地域共生社会の実現を図るため、この八本松みなみ地区福祉会等の活動状況が東広島市の広報誌「ひがしひろしま」に掲載されることになり、7月3日八本松南集会所で関係者が取材を受け、8月の広報誌に掲載される予定。